

令和7年度 2学年授業改善プラン

大田区立矢口小学校

1. 昨年度の授業改善プランの検証

- 家庭学習や読書の習慣がほぼ身に付いている。
- どの学習も意欲的に取り組み、自分なりに考えて学習に取り組める児童が増えてきている。
- ◆相手を見て、自分の意見を話したり、教員の話や友達の考えを聞いたりすることが難しい児童が一定数いる。

2. 各教科の授業改善プラン

【国語】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆平仮名や片仮名、助詞、拗音、長音、濁音、促音を正しく書く能力は個人差がある。 ◆句点、読点、かぎ、ダッシュの使い方や、マスのどの位置に書くかの知識や能力にも個人差が見られる。 ○各学級ごとに、復習する時間を設定し、課題に合った資料を提示しながら、定着するまで反復指導する。	◆書きたいこと、伝えたいことが見つからなかったり、分からないとあきらめたりする児童もあり、個人差が大きい。 ◆書き方が分からず、書き出しに迷っている児童がいる。 ○自分の経験や想像したことを基に、伝えたいことを書き表す力を伸ばしていく。 ○文型を示し、具体的に思いを表現することができるようにする。	◆読書に取り組む意欲が児童によって差が大きい。 ○図書や、朝読書の時間を活用して、本を紹介し合う時間を設定する。また、単元に合わせた本を、いつでも読める環境を設ける。

【算数】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆繰り上がり繰り下がりの計算や、単位換算の個人差が見られる。 ○ドリルパークを活用し、反復練習をする。また日常生活の中で、長さの感覚を養ったり、時刻や時間を使い慣れさせたりする経験を取り入れる。	◆問題文を読み取る力が弱い。 ○習熟度に応じて話し合い活動を工夫し、分かったことや求めたいことを整理する。 ○式や計算の仕方などが、なぜ、このようになるのかを考える場面を設定する。 ○具体物や図を用いて、式や計算などの仕方を考える力を養う。	◆すすんで学習する児童と、受け身である児童との差がある。 ○自分から取り組めるように、興味をもたせたり、活動方法を提示して選ばせたりして、考えるきっかけを設定していく。

【生活】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆自分との関わりとして考えることが難しい。 ○学校、家庭、地域、公共物、身近な自然、動植物、自分の成長などの様子や、それらと自分との関わりやよさに気付く場面を設定する。	◆自分なりの工夫をして表現することに個人差がある。 ○気付いたことや楽しかったこと、自分なりに工夫したことなどの視点を定めて考えていくよう工夫する。	◆自分たちで活動計画を立てることが難しい。 ○学習計画を示して、見通しをもたせ、単元ごとの活動の振り返りを大切にする。児童が興味をもてる課題や活動の工夫をし、主体性を高める。

【音楽】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆楽器の演奏や歌唱がまだ2学年として未熟な部分がある。 ○タンギングや指遣い、発生の仕方などを丁寧に指導し、習熟を図っていく。	◆リズムや拍をとらえて演奏したり、表現したりすることが難しい。 ○音の長さや強弱を意識させる。また、演奏するときに気を付けることを明示して定着させていく。	◆旋律の特徴を感じ取ったり、積極的に表現したりすることが上手くできない。 ○旋律の特徴や児童の表現のよかったところを伝えながら、活動していき楽しめるように工夫していく。

【図画工作】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆経験したことのある材料や用具等がまだ少ない。 ○題材に応じて、様々な用具や材料に触れさせていく機会を設定する。	◆友達や既存のものを真似る児童が一定数いる。 ○児童相互の鑑賞活動を通して、様々なよさがあることに気付くよう、機会をとらえて働きかける。	○毎時間のめあてを提示し、何をするのかを明確にする。 ○めあてを達成させるために、どのような活動や技術が必要かを考えさせ、活動に取り組みさせていく。

【体育】

観点別課題(◆)と改善プラン(○)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◆いろいろな運動遊びの基本的な動きを身に付けていない児童が一定数いる。 ○児童により、得意・苦手と感じる運動があるため、準備運動の際に簡単な動きで楽しめるものを取り入れていく。	◆運動遊びで、工夫して遊べる児童と遊べない児童がいる。 ○工夫して遊ぶことが難しい児童には、友達のよいところを真似るとともに、よいところを見付けさせていく。	◆いろいろな運動遊びで、安全に遊べない児童がいる。 ○安全な体の動かし方や、ルールを伝えるときにも、理由を考えさせていく機会をもつ。